

市民ミーティング（一宮）要約

日 時 平成 21 年 11 月 10 日(火) 午後 7 時 30 分～9 時 38 分終了
会 場 いちのみや桃の里ふれあい文化館
テ ー マ 市の財政状況、大型施設整備構想、都市計画税
参加人数 45 名
市役所（出席者）：市長、副市長、総務部長、税務課資産税担当リーダー、経営政策部長、財政課長、建設部長、まちづくり整備課長、公営企業部長、下水道課長

開会

1. 市長あいさつ

2. 市の財政状況について

説明

財政課長

質疑応答・意見交換

質疑・意見なし

3. 大型施設整備構想

説明

経営政策部長

質疑応答・意見交換

市民

資料を見ると一宮の施設が載っていない。一宮では「合併してメリットがなかった。」との声が強い。合併特例債を使って一宮にメリットがあるか疑問である。地域性を考えてほしい。

合併特例債は、7割が返ってくる有利な起債というが、民主党政権に代わり、無駄な公共事業は削るとのことである。たとえば、サッカー場建設は、どれくらいの声があるかわからないが笛吹市でなくてもいいのではないか。

多目的施設は、利用率を考えて造ってほしい。

経営政策部長

説明した6つの中に「一宮町のものがない」ということだが、合併特例債は道路建設、農業基盤整備とか色々な事業に使っている。

一宮地域で合併特例債を使った主な行事業は、準用河川の整備に1億8000万円、人工

芝のテニスコートの整備を進めている。一宮中学校の改築・耐震工事 6 億円、給食共同調理場が 7 億円、道路では、市道塩田金沢線が 3 億 8000 万円、水路改修・道路改修なども行っている。

地域に偏った考えでなく、必要な事業を取り入れている。

大型施設整備構想を実現するためには、国の有利な補助金を充てることを予定している。国の事業仕分けで、補助金がなくなった場合は、その段階で判断する。

国がどのような判断を出すのか、どんな仕分けをするのかを毎日注視している。

国の補助金が付いたものから順次進めていきたい。

多目的ホール、サッカー場は、これまでいろいろな方から要望書をいただいている。

いろいろな方々に目的とする施設を聞くと、運動施設的なもの、文化ホール的なものなどいろいろな要望がある。

どんな施設にしたら良いのか、実際に施設は必要なのか、必要でないのか、市民アンケートを行っている。

アンケート結果に基づき、具体的にどんな施設を造るか判断していきたい。

市民

稼働率がどれ位か分からないが、造った後の維持管理費が毎年何億という赤字になると意味の無いものになる。市内の公共施設や体育館などは赤字と聞く。

多目的ホールを造って、運営して毎年維持管理費で赤字になるのは困る。

経営政策部長

施設を造れば、当然維持管理費が発生する。黒字で採算が合うなら公がやる必要はない。

赤字というのではなく、市民サービスである。価値観や市民の満足度がどうかである。市民サービスのために施設を造って、運営していく。市民の価値観がどうかである。

現在、大きな施設では、スコレーセンターと、桃の里ふれあい文化館がある。スコレーセンターは 350 人から 400 人しか入れないため、イベントや芸能を見ようとしても入場制限で見ることができない。

大雑把に 1,000 人から 2,000 人の施設を考えている。

稼働率は難しく、民間が平日も使ってくれれば稼働率がいい。

いずれの施設も黒字の所はない。市民サービスを目的とする施設であるということがポイントになる。

市民

赤字になる施設を造る必要があるか。何年か経つと維持費に税金を使い、自分たちの生活に影響してくる。

経営政策部長

体育館が黒字かということ黒字ではない。黒字にするなら利用料を高くすればいい。利用料を多くとって市民サービスかということ疑問である。

公営の温泉施設が3施設ある。一宮、御坂、石和地区にある。市民が安く利用できる施設であり、必ずしも黒字ではない。

赤字ということだけでなく、負担している部分は市民サービスである。サービスが必要かどうかである。

市民

笛吹市の財政状況は非常に健全だと聞いたが、借金残高を見ると668億円あり、1人当たり約93万円の借金がある。子や孫に借金を残さないように、方法を考えていくのが今の我々の使命である。慎重に進めて欲しい。

合併特例債は、有利であるといっているが借金であり、借金は返さなければならない。バイオマスセンターのような施設は良いと思う。

市長

10年の財政計画を作り、健全財政が見込めるということで、慎重に進めている。

国から新しい市を創るために合併特例債を使い、市民がひとつになり、活性化し発展することができるようにということである。

90何万円のすべてが市民の借金でなく、国が負担してくれる部分がある。

多目的ホールについては、皆さんの意見を聞いて、「やれやれ」ということであれば進める。

公共施設の場合、利益を追求するということはない。市民のためにどれだけ役に立つかを伺いながら進めていきたい。

市の財政を考えながら市民の要望にどう応えるかが、私たち執行側の責任である。造っても全く使わない施設、これは政治的判断の誤りである。

市民ミーティングを行い、議会の意見を聞き、あるいは、地域審議会の意見を聞き、単一的な方向でなく進めて行きたい。

市民

合併特例債の返済は、どのような形で行われるのか。

財政課長

合併特例債は、一般財源で返済する。

民間資金を借りるとするのが合併特例債の方法である。

大きい箱物を造った場合に使った合併特例債は20年で償還。基金・備品購入に使った場合は、10年で償還する。基本的には、元金均等10年で返済する。

市民

ごみ処理施設や、多目的施設などは、お金があれば造りたい施設である。

市民の一番心配は、保険料が上がらないか、下水道料が上がらないか、上水道が上がらないか、先を心配している。

10年後まで見込んだシミュレーションをしっかりとやって欲しい。

管理費を入れた形で、最大限に借金した場合、バランスの取れる範囲を示していけば市民は安心する。

100億円近くある基金の使い方を聞きたい。100億円残す必要はないと考える。

多目的で造っても、使い物にならないという話を全国的に聞く。どのように7万人の市民が発展し、文化の醸成をしていくのか。

今後の笛吹市が、観光とか、教育とか含めて発展していくためには、基本的に何のために造るかをよく議論しなければならない。

アンケート結果を分析して、予算、内容、7万人の市民の適合性がどうか、市民、専門家、行政が入った形の会合を早急に開いてほしい。

バイオスタウンは非常に企業に近い。ある程度、採算を考えるべき。維持管理を含めて事業として成り立つのかどうか教えてほしい。

市長

財政計画は、今まで5年計画を作っていた。今回の大型構想を含めて、10年間の財政計画を作っている。

毎年度予算を作る中で、長期計画とどれくらいギャップがあるかを常に検証しながら、予算を作っている。

今100億円の基金がある。合併した時は50億円を割っていたが、徐々に増えてきた。

笛吹市は使い切り予算を止めて、目的のものが終わったら財政に戻すという形で行っている。

平成20年度は60億円の基金を崩した。職員の努力、市民の協力により、予算を執行する中で余った部分は戻した。それ以上余った部分については基金に上乘せした。

平成21年度の予算については、国の景気対策の予算が入ってきたから数字が大きく変わった。平成21年度の予算は、最終的には300億円を超える。

10年計画の数字がぶれるような予算は絶対組まないことをしっかり約束したい。

10年計画を市民に見てもらい、「ここはおかしい」という形で指摘をしてもらえればありがたい。

多目的ホールの検討会については、今回各地区を回り意見をいただき集約する中で、市民を入れた建設検討委員会を作って検討し、これでいけるという場合、この施設を造った場合に維持管理費を含めて運営費をいくらまで出せるのか。あるいは、いくらかかるのかという2つのことを合わせて検討しながら進めたい。

バイオスタウンは、市で土地だけ用意して、後は民間事業でやってください。内容的には、これとこれだけは業務として行ってくれないと困るという形で進めていきたい。

バイオスタウンの施設は赤字になる施設を造ると困る。ただし、初期投資は、市で

しなければならない。

市民

シミュレーションは、文書化されたものを説明会、または広報紙で発表するような形でお願いしたい。

合併して5年になるが7町村の一体感が、まだ醸成されていない。多目的ホールを造ることは、一体感醸成の最大のチャンスだと思う。

4. 都市計画税について

説明

総務部長

公営企業部長

質疑応答・意見交換

市民

税金、国民健康保険、介護保険など負担が多くなっている。各家庭でこれ以上税金が増えるのは大変である。

都市計画税は、固定資産評価額の0.2%ということだが、一戸あたりの平均でどれくらいの課税額になるのか。

都市計画区域内で、合併浄化槽の設置費の80万円から100万円の6割を補助するとあるが、どういう財源から補助するのか。

総務部長

都市計画税の試算で、固定資産税を単純に法人も含めた納税義務者数で割ると、2万円から2万3000円くらいの負担になる。

合併浄化槽の設置費の財源は、都市計画税を予定している。

市民

下水道の事業費を来年度から半分に減らした場合、何年で完成する考えか。

普及率、水洗化率がこんなに低い原因と具体的にどのような手を打っているか説明してほしい。

下水道課長

15年間で残ったエリアを仕上げていく計画である。

水洗化率の向上については、整備事業が終わると翌年には、供用開始でおよそ800世帯が新たに使えるようになる。すでに供用開始になっている人がつなぎこみを行っても水洗化率は増えない。

説明会などでお願いしているがなかなか伸びない。広報紙のPRでは不十分というこ

とで、昨年から1軒1軒回って水洗化のお願いをしている。

5. その他

市民

市所有のバスを育成会で利用したいが、市の主催、学校行事しか使用できないとのことである。子どもクラブや育成会で市のバスを利用できるようにしてほしい。

総務部長

市のバスについては使用規則で、市の主催が原則になっている。

生涯学習で青少年の育成で一部使っている。子どもクラブ独自の事業は該当にならないが、支所・教育委員会に相談していただきたい。

市民

大型施設整備構想にもあったが、市民サービスの歳出という観点からいえば、利用できるようにしてほしい。

総務部長

原則的には、各課で行う事業に利用することになっている。

スポ少などにも使っているが、子どもクラブはいくつもあり、バスの制限等もあるので、ここでいいと返事はできない。

支所・生涯学習課に相談してほしい。

市民

今インフルエンザがはやっているが、乳幼児の休日夜間の医療の体制が遠く、見せたい状況でも時間がかかり、重篤になる。

距離的に身近なところに救急病院があると安心できる。

他市町村では小学生まで医療費無料化になっている。また、中学生まで無料化しているところもある。笛吹市は、どのような考え方が。

副市長

身近に救急医療期間があることが望ましいが、小児科の医師が少ないという状況があるので、なかなか思うとおりにいかないのが現実である。

休日夜間の診療体制については、県等と話をする中で検討していきたい。

乳幼児の医療費の無料化は、入院が3歳、通院が就学前であったものを今年度から、就学時まで無料化の対象にしている。現在小学校まで拡大という方向で検討している。

市民

市民の足を確保する市営バス、3路線の検証を行っていたが今年の3月で終わっている。

今後いつまでに、どのように検討するか教えてほしい。

経営政策部長

実証運行を 20 年 1 月から今年の 3 月まで行ってきた。

国の基準からいくと、乗車密度で 2.0 人以上乗らないとだめである。利用者数でいくと、1 日に 40 人から 50 人になる。50 人いれば運行している自治体がある。逆を言えば、50 人を切る路線は廃止している。

一宮金川原路線が、延数で 1 日平均 30 人。富士見の平均乗車数が 1 日平均 28 人から 30 人くらい。春日居から石和温泉駅の平均乗車数が 1 日平均 5 人から 18 人。平均乗車密度が、0.7 人と少ない。

バスの小型化、ルートの変更とか、何とか平均乗車密度 2.0 人にできないか研究を進めている。それが不可能であれば、利用に基づいて運行するデマンドバスの運行。

いつの段階で、デマンドバスに変更するか、2.0 人が可能なのかの追跡調査を行いながら来年の運行計画を策定中である。

合わせて、既設路線、一宮路線を石和温泉駅まで運行する。1 日の利用者数が 15 人から 20 人の利用である。

廃止した実証路線と合わせて、デマンドがいいか、路線がいいか検討している。

国の補助金をもらいながら進めたいと考えている。

閉会

市民ミーティング（境川）要約

日 時 平成 21 年 11 月 12 日(木) 午後 7 時 30 分～9 時 11 分終了

会 場 境川総合会館

テ ー マ 市の財政状況、大型施設整備構想、都市計画税

参加人数 75 名

市役所（出席者）：市長、副市長、総務部長、税務課資産税担当リーダー、経営政策部長、財政課長、建設部長、まちづくり整備課長、公営企業部長、業務課長、水道課長、下水道課長、境川支所長

開会

1. 市長あいさつ

2. 市の財政状況について

説明

財政課長

質疑応答・意見交換

質疑・意見なし

3. 大型施設整備構想

説明

経営政策部長

質疑応答・意見交換

市民

バイオマスセンターを市で行う意味を説明して欲しい。

経営政策部長

市は、平成 19 年にバイオマスタウン構想を策定した。

ごみ処理にはコストがかかっている。生ごみなどを処理するので処理費用が下がる。

採算性を考えながら進めて行きたい。

市民

上寺尾地区にごみ処理施設を造っている。バイオマスセンターも同じ施設内に造れば費用はかからない。

副市長

上寺尾地区のごみ処理施設は、環境整備事業団が最終処分場を計画している施設である。

バイオマスセンター設置場所は、現在検討中であり、総合的に検討していく必要がある。

計画が進んでいる施設との整合性を考えなければならない。

現在は、ごみ処理施設とは別と考えている。

市民

なぜ、上寺尾地区とは、別の場所にするのか。

副市長

上寺尾地区のごみ処理施設は、すでに事業が進んでいる。

上寺尾地区へのバイオマスセンター建設については、トータル的に判断していかなければならない。

市民

なぜ、32億円もかかる施設を笛吹市単独で行うのか。

副市長

バイオマスセンターでは、生ごみの処理を考えている。

上寺尾地区のごみ処理施設は、中間処理・最終処分を行う。

処理品目・処理方法が違っているので、切り離して考えている。

施設建設には、市が資金を集め民間が事業を行う方式を考えている。

市民

バイオマスセンターとごみ処理施設を1箇所にまとめて行う方が効率的であり、別の場所で行う意味が理解できない。

副市長

いただいた意見は、参考にさせていただく。内容については今後検討する。

市民

中寺尾の住民であるが、新たなごみ処理場は困る。前の方の考え方は合理的だと思うが、これ以上の施設は困る。

近隣でバイオマスセンターの成功している例を挙げてほしい。

経営政策部長

近隣でバイオマスセンターが成功している事例は、北陸地方にある。
笛吹市と近い考え方は、宮崎県と鹿児島県で行っている。
事業として成功し、採算も取れていると聞いている。

市民

行政区への負担は増えたが、助成は減っている。

市長

境川地域は、合併前行政サービスが手厚かった。
他の地域と中和していることで、負担が増えていると感じていると思う。
全市民に公平な行政サービスを行えるように考えている。

市民

境川村のときより、厳しくなってきている。

市長

言われることは、十分承知している。

大きな変化がある時は、市民ミーティングや地域審議会を行い、意見を伺いながら進めたい。

合併の説明会等で、「合併すればサービスは高く、負担は低くなる」と说っていた地域もあると聞いている。単独ではやっていけないので合併した。

全市一体で行政運営を行うことで理解して欲しい。

市民

サッカー場の資料で、費用と場所は検討中とある。

サッカー場の話は進めて欲しい。

チラシの中で、浸水対策とサッカー場と砂原橋がセットで検討されているとあった。

笛吹市内で床下浸水するのは、大坪地区しかない。サッカー場と浸水対策が絡み合うのは違う。砂原橋は、長い間の懸案である。

3つの問題は、絡めずに事業を行って欲しい。

市長

浸水対策とサッカー場建設は別の話である。

浸水対策は、調査が始まっている。

工業団地ができ、砂原橋の利用が増えてきた。

サッカー場は、用地がありサッカー協会から話が来たことで事業を計画した。市民から話を聞く中で進めていく。

市民

多目的ホールは、財政的に許すならばあったほうがいい。

庁舎の建設場所を決める時失敗している。庁舎の時のようなことのないよう、大勢の市民が参加する市民中心の検討委員会の中で十分協議をしながら進めて欲しい。

市長

どういう施設が良いのか、維持費がどれ位かかるのかなど、できるだけ広い範囲で、いくつかのグループに分けて検討してもらい決めていく。

多目的ホールは、維持管理費、市民のためになる施設を検討していく。

建設場所を決める時が一番もめる時である。

1箇所にしか建設できないことから、市民の意見を聞き、最後は天の声となる。

4. 都市計画税について

説明

総務部長

公営企業部長

質疑応答・意見交換

質疑応答なし

5. その他

市長

藤壘の滝の公園を、都市公園にできないかと考えているが、一部神社の土地があり、難しいところもある。

藤壘の滝には、案内看板が少ない。看板と遊歩道の整備を考えている。

市民

ふるさと公園から俳人飯田蛇笏・龍太の家を通り藤壘の滝という散策コースを作ってほしい。

市長

「俳人飯田蛇笏・龍太の家を観光名所に」との話は、議会からもあったが、家族が住んでいるところを観光名所にすることはいかがかと回答した。

今では、ご子息が自ら整備していると聞いている。ご子息に意向を聞きたい。

今年も俳句大会を行った。ゆくゆくは、「俳句のふるさと 笛吹市」の宣言も考えていきたい。

閉会

市民ミーティング（石和）要約

日 時 平成 21 年 11 月 16 日(月) 午後 7 時 30 分～9 時 32 分終了
会 場 スコレーセンター
テ ー マ 市の財政状況、大型施設整備構想、都市計画税
参加人数 41 名
市役所（出席者）：市長、副市長、総務部長、税務課長、経営政策部長、財政課長、建設部長、まちづくり整備課長、公営企業部長、下水道課長、業務課長

開会

1. 市長あいさつ

2. 市の財政状況について

説明

財政課長

質疑応答・意見交換

質疑・意見なし

3. 大型施設整備構想

説明

経営政策部長

質疑応答・意見交換

市民

大型施設整備構想の総事業費が 150 億円あるが、事業が終了する平成 26 年度の財政健全化比率はどうなっているか。

経営政策部長

平成 26 年度の公債費率が、18%超えるかどうかという試算である。

市民

多目的ホールは、全日本クラスの試合ができる施設ということを加味すると、2,500 人から 3,000 人収容の施設がいい。バレーのコート 3 面が取れる大きさが必要である。

旅館も全国大会を受け入れる収容能力を持っている。

全国大会を開催し、一流のスポーツを観戦することは、技術の向上につながる。

体育協会から市や議会に市民が一堂に会する、体育館、スポーツ公園の要望を行って

いる。多目的ホールは、要望を踏まえた規模のものを計画しているのか。

経営政策部長

先進自治体では1,000人規模のところは、1,200人規模を欲しいと、1,200人規模のところは、1,800人規模であれば稼働率も上がると言っている。ランニングコストを考えれば、光熱水費等で4,500万円くらいを考えているので、1,000人～2000人規模と考えているが、規模については市民の皆様の意見を入れていきたい。

全体的にも意見をいただく中で、進めていきたい。

運動公園として考えているかということだが、多目的施設ということでご理解いただきたい。

市民

多目的ホールは、体育施設併用を考えているのか。

経営政策部長

コンベンションホールか体育館の併用を考えている。

1,000人にアンケート調査を行っている。アンケート結果などを参考に、多目的ホールの建設ポイントを決定していく。

市民

多目的ホールは、全国大会が開催できる規模のものを考えているのか。

経営政策部長

どの様な施設にするか考えている。

市民

考えているのということでもいいのか。

市長

中途半端な施設では、意味がない。例えば、2,000人くらいの収容規模であるとか、バレーボールのコートなら3面は取れるような多目的な施設を、意見を聞きながら検討していきたい。

市民

笛吹市が合併して5年が経過しても一体感が醸成しないのは、出初式や成人式が1ヶ所でできないことが挙げられる。ばらばらになっている市民を一つにできる施設を造って欲しい。

多目的ホールを造るのであれば、維持費がかかってもそれを上回る経済効果のある施

設を造ってほしい。

重要度の順番は、駅周辺整備の次に多目的ホールがこなればおかし。

市民

1,000 人に送付したというアンケート調査は、どのような人に送ったのか。

多目的ホールの 1 日の施設利用者をどのように考えているのか。

建設するときの業者選定はどのように考えているのか。県外業者に発注すると税金は県外に流れてしまう。県内・市内の業者を考えているのか。

経営政策部長

アンケート調査は、15 歳以上の人から無作為抽出している。

市内の大きな施設で 1 日に収容できる人数は、スコレーセンターが 400 人、桃の里ふれあい文化館が 350 人である。

施設を利用している人の生の声を聞いている。大きい施設ができたなら利用をするか聞いている。

副市長

施工業者の選定については決まっていない。

入札は、一般競争入札で行っている。事後審査型一般競争入札を行う場合、市内に本社・本店があることを条件付けている工事もある。

技術力を要するものは、範囲を県内・全国に広げている。

境川浄水場、防災無線などの大きい工事は、下請け業者は市内業者と条件を付けている。今後も、市内業者が元気になる様基本的に考えている。。

市民

市内には、リハビリテーション病院が多くあり、電車を利用する患者も多くいる。

30 人の車椅子の団体が県外から来たとき、石和温泉駅で降りると、跨線橋を渡るのが大変ということで、山梨市駅まで行き引き返してきたという話を聞いたことがある。

施設整備に 3 年から 5 年かかるのであれば、仮設でエレベーターを設置してほしい。

市長

駅の整備はバリアフリーがポイントである。また、駅の南北で使えるようにすることがポイントである。

駅の整備は進めていかなければならない。最悪、バリアフリーだけは進めたい。

市民

どんどん進めてほしい。施設整備になぜ反対するか不思議である。

4. 都市計画税について

説明

総務部長

公営企業部長

質疑応答・意見交換

質疑応答なし

5. その他

市民

笛吹市は税金の収納率が低い。税金をコンビニで納めることができるようにしたことは、納める人にとって納めやすくなった。

収税課を新設したが、効果はどうか。

総務部長

合併してから収納率が下がった。収納率は、平成 16 年に 78.9%あったが、平成 18 年は 76%になった。

平成 18 年度に収税課を設置し、平成 19 年度の収納率は 2.2%アップした。

平成 20 年度は、秋以降の経済状況の悪化で、0.2%ダウンした。

収税課を設置し、効果は上がった。

市民

山梨税務署で、租税教育に力を入れているが、笛吹市の学校では 10%くらいしか開催していない。

市内の小中学校で、税についてもっと勉強してもらいたい。

総務部長

市内の 8 校で子どもの租税教育を行っている。

子どもへの租税教育の推進については、教育委員会と相談していく。

市民

体育協会で体育館建設の要望をしてきた。文化館と体育館が一緒の施設は、どうかと思う。県の規模は造れないが、何をする施設か考えて造ってほしい。

教育費が 2 億円削減され、国分寺の事業費も削減になると思うが国分寺の予算を削減されては困る。

市長

国分寺の事業費は、国負担 80%、県負担 10%、市負担 10%で行っている。

県から県負担減額の話があった。国負担が 80%出すから、市が 20%負担するようにと

のことである。

国分寺の事業については、国負担 80%、県負担 10%、市負担 10%と役割分担する中で行っていきたい。

多目的施設は、市民ミーティングで意見をいただき、その後、検討機関を設置する。

検討機関は、2つのグループができる。ひとつは職員のグループ、ひとつは市民中心の建設検討グループである。

市民が要望する以外の施設を造っても利用されない。

文化の関係では、「体育施設と一緒にでは困る」という話も聞く。

将来の負担がかかる施設では困る。建設費の負担は10年で終わるが、維持管理費はかかり続ける。

維持管理費が市民サービスにつながるのであれば、多目的ホールの建設を考えていきたい。費用対効果を考えていきたい。

閉会

市民ミーティング（御坂）要約

日 時 平成 21 年 11 月 17 日(火) 午後 7 時 30 分～9 時 38 分終了
会 場 御坂農村環境改善センター
テ ー マ 市の財政状況、大型施設整備構想、都市計画税
参加人数 110 名
市役所（出席者）：市長、副市長、総務部長、税務課長、経営政策部長、財政課長、まちづくり整備課長、公営企業部長、下水道課リーダー、御坂支所長

開会

1. 市長あいさつ

2. 市の財政状況について

説明

財政課長

質疑応答・意見交換

質疑・意見なし

3. 大型施設整備構想

説明

経営政策部長

質疑応答・意見交換

市民

箱物を造るという発想は 10 年 20 年前の発想である。

箱物は維持管理費がかかり、各自治体のお荷物になっている。今、何故箱物を造らなければならないのか。

合併特例債が市に有利な資金であっても、もとは税金であり何れ国民が負担することになる。

市民の信を問うくらいの覚悟を持って事業を行ってほしい。

知恵を使い、金を使わない方法を考えてほしい。積極的にあれもこれもという人はいない。スコレーセンターや桃の里ふれあい文化館を有効利用してほしい。

経営政策部長

市民の意見を聞いて判断するために、アンケート調査を行っている。既存施設の評価を行っている。

スポーツ施設を併用したらどうかとの要望がある。現在、多くの市民を収容できる施設がない。

スコレーセンターが 400 名、桃の里ふれあい文化館が 350 名であり、文化的なイベントを開催して入場希望があっても収容できないことがある。

多目的ホールは、生涯学習のためにも必要である。類似施設があれば造らない。

今は合併の特例により、7 町村分の交付税であるが、いずれ 7 万 2000 人規模の交付税に下がる。その差が 30 億円あり、サービスを下げなければならなくなる。

財政状況を考えながら、有利な資金があるときに道路、橋、施設などの整備を行っていかなければならない。

市民

市役所前の観覧席は、入湯税で整備したというが、預かった入湯税を納めない旅館があると聞く、納税者として納得できない。

お金をかけなくても、まちづくりはできるのではないか。

市長

税金の滞納は大きな課題である。市では収税課をつくり、滞納者には厳しく対応をしている。

現年分の収納率は、93%～95%である。

会社が倒産しても解散せず、中途半端になっていることが原因で、額の大きなものは、1ヶ所で1億8000万円の滞納がある。ルールにのっとり業務を行っているため、収納率は低くなっている。

箱物、道路は要らないとのことだが、お金の使い道を考え一つ一つ検討しながら行っている。

市民から納めていただいた貴重なお金は、大切に使っている。

大型施設整備は、この時期でないとできないと判断した。

ここに示すまでには、執行部だけの判断でなく、市民や各種団体からの要望や陳情をもとに構想をつくった。

市民

バイオマスセンターについて建設費は32億円とあるが、建設場所が示されていない。

今まで、八千蔵・高家との話しがあったが、なぜ今回場所を示さないのか。

ごみの中間処理施設にならなかった補償をくれるとのことだったが、どうなっているのか。

4市でバイオマスセンター建設の約束が取れているのか。

早く土地を買ってもらいたい人もいるが、他市に負担金を断られたらどうなるのか。

経営政策部長

場所については、まだ議会に報告をしていないことと、方向が出ていないので話さなかった。

八千蔵・高家については、甲府市・笛吹市で中間処理施設の候補地になったが、県の計画があり、境川が候補地となった。八千蔵・高家については、行政責任で対応していきたい。

4市共通の施設、甲府市・笛吹市共通の施設、笛吹市単独の施設を検討し、笛吹市からバイオマスセンターの提案をしたが、他市は生ごみの搬入が難しいとの判断をされ、11月6日の4市の首長の話し合いで、4市共通の施設を造るということで合意した。用地のみの負担をすることとしていたが、用地費の負担をするのであれば、やはり4市で共通利用できる施設を検討していくこととなった。

市民

合併特例債に対する交付税措置（7割）がなくなった場合でも、事業を行うのか。

示された資料には事業の詳細についての説明がない。すべて造ったとしたら、市の財政状況はどうなるのか。

合併特例債を使ったら、いくら借金ができるのか。

経営政策部長

平成18年に合併したときと法律が変わったが、合併特例債は旧法で約束されている。

明確な資料がないのは、構想をコンパクトな資料にしたためである。実現できるようになったら、詳細な資料を作成する。内部資料はあるが、まだ示せるものではない。

借金の10年後の推計はしている。100%事業を行った場合、10年後は今とほぼ同じ見込みである。

実質公債費比率は、20年度13.5%が、すべての事業に合併特例債を使うと18.5%である。

市民

一宮の清楓美術館が平成22年度で閉館する。

合併し、笛吹市にはいろいろな魅力があるまちになると思っていたが、だんだんさびしくなってきた。

少ない財政を工夫してどのように使っていくか注目している。

文化施設のないまちは、魅力のある場所とは思わない。

ホールはどこの施設も特徴があり、多目的、何でもできるという施設を造ってはだめである。

施設は特化したものでなければ利用されない。施設の維持管理をスペシャリストが行うような施設でなければだめである。

桃の里ふれあい文化館は、民間委託にして使いにくくなった。

今まで無料で使えたものが有料になった。税金で造り一業者を儲けさせることになっている。

今ある施設を管理できない市が、施設を新たに造り管理できるのか。

市民

美術館はどこも赤字で、黒字の施設はない。

文化は費用対効果を計算できない。

投資することにより、花開くときが来る。

何人利用したかで判断することは間違っている。

市長

教育も同じである。いくらかけたからいいというものではない。

美術館は、年間にどれくらい利用者がいるかである。

年々厳しい状況である。

市民

入館者は非常に少ないが、年間の予算は、人件費と光熱水費で400万円くらいである。

チラシを作成する費用もない状況である。

市長

清楓美術館については、運営協議会で検討していただいている。

市長

一宮の体育館は、市で管理できないから委託しているのではなく、民間にできることは民間でという考えで、民間事業者による指定管理を行っている。

使いにくくなったという部分については、今まで自由勝手に使用できたものが、規則に則って業務を行うようになったことで、使いにくくなったと感じていると思われる。

民間で行うことにより費用負担が軽減し、同じサービスを安く提供できることから指定管理を行っている。

市民

構想の事業費は何10億円という金額が並んでいる。

入札結果を見ると、公共事業は落札率95%以上の高い金額で落札である。

建設業者は、「談合は必要悪」との話しも聞くが、納税者からみるとシビアに入札を行ってほしい。

市長

入札は、大きな問題と認識している。

96%、97%という入札もあるが、仕事により落札率の差がある。

地元の業者をないがしろにして、一般競争入札を行うこともいいが、不測の事態が起きたとき対応できる業者が市内にいないとき、どのような対応をするか課題である。

市では、条件付一般競争入札を行っている。

入札事業者の要件を市内に限るとか、県内に限るとか、全国一律とか業務により使い分けを行っている。

落札率何%が良いかという判断は難しい。

安ければいいというものではない。安い金額で手抜きをされると、後に負担が増える。

市民

地域を限定した入札はいかなものか。

市長

入札については、さらに勉強していかなければならない。

市民

多目的ホールの建設に、50億円の事業費を計画しているが、造った後どれくらいのランニングコストがかかるのか。

どれくらいの施設を造る考えか。利用策はどの様に考えているのか。

経営政策部長

ランニングコストは、どのような施設ができるかで変わってくる。

1,000人規模の施設で、人件費や事業費は別で4,000万円から4,500万円を見込んでいる。

施設運営を効率よくすれば、ランニングコストは下がる。

蕨崎市では、施設の維持管理に7,000万円から9,000万円かかっていると聞く。

どのような施設を造ったらよいか検討している。

市民

何かをやりたいから造るという詳細が出ていないのは寂しい。

経営政策部長

構想の段階で、具体的な計画を作る前の段階である。

市民

こういうことがしたいから、施設を造るというものを出してほしい。

市長

今は、市民総参加で行うという考えがある。

予算を作る前に「これはいい」、「これは悪い」と検討している。

以前は、私たちが細かい計画を作って市民に出すときには、80%以上出来上がり、「これでやるから理解してくれ」というやり方だった。

今からは「市民からこういう要望があります」、「こういうものを造りたいがどうか」という話をして進める。

今日は、その意見を聞くために来ている。

市民

意見を聞いて、建設を中止することもあるのか。

市長

ありきで話をしたら、このような話し合いを行わず、「皆さんこういう施設を造りますからよろしく」ということになる。

先ほどの話の中で、「施設を造るなら首をかけてしろ」との話があったが、そういう段階ではない。

4. 都市計画税について

説明

総務部長

公営企業部長

質疑応答・意見交換

質疑応答なし

閉会

市民ミーティング（八代）要約

日 時 平成 21 年 11 月 18 日(水) 午後 7 時 30 分～9 時 50 分終了

会 場 八代総合会館

テ ー マ 市の財政状況、大型施設整備構想、都市計画税

参加人数 73 名

市役所（出席者）：市長、副市長、総務部長、税務課長、経営政策部長、財政課長、まちづくり整備課長、公営企業部長、下水道課、八代支所長

開会

1. 市長あいさつ

2. 市の財政状況について

説明

財政課長

質疑応答・意見交換

市民

各年度の予算の使い切りを行っていないことはありがたい。市長の財政に対する考え方は継続してほしい。

市の起債残高が 668 億円あるが、5 年後、10 年後には増えているのか減っているのか。

経営政策部長

一般会計の起債残高は、339 億円である。

大型施設整備構想事業を行い、国が交付税措置で見えてくれる起債を考慮すると、起債残高は、5 年後に 447 億円、10 年後が 331 億円の推計である。

市民

基金保有高のその他の特定目的基金の内容を教えてください。

財政課長

基金の主なものは、公共施設整備基金が 19 億円、地域福祉基金が 11 億円、地域振興基金が 39 億円、減債基金が 8 億円。

市民

基金はどのような形で金額を決めているのか。

財政課長

基金は条例で目的は決めているが、金額については決められていない。

経営政策部長

後年度にどれくらいの事業をするかで基金を積んでおく。
起債が増えることを見込んだときは、減債基金を積み立てる。
合併特例債で考えられる満額を積んでいる。

3. 大型施設整備構想

説明

経営政策部長

質疑応答・意見交換

市民

バイオマスセンターは市長の会議の席で白紙になり、この計画は土地だけを4市で買うと聞いている。

経営政策部長

市では、バイオマスセンターを4市共通の施設と考えていたが、4市の事業から外してくれとのことであった。笛吹市単独で検討している。

市民

八千蔵に、バイオマスセンターを造るのか。

経営政策部長

4市では、バイオマスセンターは建設しない。市では別の場所も探していきたい。

市民

石和温泉駅の南側はデザイン重視で使いにくく、子どもを送っても駐車スペースが少ないうえ、バラの植え込みが高く歩行者が見えにくい状況であることから、駅の南側も含めて見直しをしてほしい。

石和温泉駅北側のアクセス道路はどのように整備するのか。

砂原橋の架け替えは賛成した経緯がある。若彦路の開通により交通量の増加が考えられる。スマートインターの計画もあった。スマートインターも構想に入れてほしい。

多目的ホールは1,500人規模と言うがこれほどの施設が必要か。

借金して建てることにより、子どもが借金を背負うことになる。施設を作れば維持管理費がかかる。

韮崎市は市が管理できなくなり売却し、東京エレクトロンが管理していると聞いた。

施設が必要か検討し、議会と話しながら進めてほしい。

ふるさと公園は、駐車場が整備されれば渋滞がなくなるが、花祭りと蛍のために事業を進めていいものか。検討しながらやって欲しい。

サッカー場建設は、市が持っている運動施設を有効利用して検討してほしい。

まちづくり整備課長

バラの植え込みなどの構造物の高さは、公安委員会と協議を行い決定している。

構造物については早急な見直しは難しい。見直せるものは、見直したい。

北口を整備するときには考慮する。

北口については検討中である。まちづくり検討委員会を立ち上げて検討していきたい。

市民

バラをなくし、障がい者が渡りやすい横断歩道を整備してほしい。

見直しをするのに公安委員会がだめということであれば、交通安全協会を通して要望する。

まちづくり整備課長

わかりました。

建設部長

砂原橋の架け替えは、期成同盟会を立ち上げ進めてきた。

工事費は、補助金や合併特例債などを予定している。

若彦路は、県の話では3月中旬頃開通で進めている。

開通により、交通量が増大することを見込み道路拡幅工事、交差点改良工事、橋梁改良工事を行っている。

スマートインターは、既存のインターから5キロ離れているところという基準がある。

一宮御坂インターと南甲府インター間が10キロあり、八代が5キロの位置になる。

八代から陳情をもらい。市も県にスマートインター建設の陳情を行った。

スマートインター設置に向け、職員の研修や関係者による検討会を行った。

国土交通省より、決まりを作るので、それに基づき行動するようにとのことである。

発表されるマニュアルに基づき進める。

経営政策部長

箱物の必要性については、現在市内に1,000人規模の施設がない。

スコレーセンターが400人、桃の里ふれあい文化館が350人である。

講演会、文化的なイベントを開催しても入場制限をしている。

スポーツ関係の団体からは、「施設が足りない」との話がある。

7万2000人の笛吹市が発展するために施設が必要である。

韮崎の施設は東京エレクトロンに売却したという話は聞いていない。指定管理者が管理している。

財政課長

韮崎市の文化ホールは、財団法人武田の里文化振興協会が、指定管理者になっている。1,000 人の大ホール、300 人の小ホール、会議室があり、年間維持管理費が 7,000 万円かかっている。

経営政策部長

サッカー場建設で、市の運動施設も活用したらどうかとの意見は、サッカー場建設の参考意見とする。

建設部長

ふるさと公園は、春はバスを駐車することができず、駐車場をピストン輸送している。蛍を県内外から見に来てもらうことも大切である。
リニア実験線プロジェクトの路線のほとんどがトンネルだが、ふるさと公園付近は高架であることから、見学車両が増えることが見込まれる。
駐車場整備にあわせ、ふるさと公園はプラスアルファの整備が必要である。多くの人が利用できる施設にしたい。

市民

ふるさと公園の景観は、山梨県一である。区をあげて蛍の里整備を行っている。リニアの通る上には、貴重なケヤキの森がある。
駐車場整備だけでなく、他に負けないような整備をしてほしい。
ふるさと公園は、いつ頃計画が完成するのか。

建設部長

ふるさと公園は、平成 16 年に八代町が基礎調査を行っている。
12 月議会で、八代町時代に行った基礎調査の分析をするための費用を確保したい。
平成 21 年度から事業着手を行い、平成 25 年度末までには完全に整備をしたい。

市民

バイオマスセンター予定地を 4 市で負担していかなければならないが、土地の買収単価はいくらになるのか。
周辺地域の意見はどうなっているのか。
境川のごみ処理施設に併設できないのか。
バイオマスセンター建設の目的は何か。
バイオマスセンターのごみ減量に対する貢献度はどれくらいあるか。

バイオマスセンターは、周囲への悪臭、騒音などを解決しなければ住民の理解が得られない。

砂原橋の架け替えは悲願であるが、下流に架け替えと聞いている。増田地区の活性化につながるのか。

上流への架け替えでないと八代のためにならない。

市長

八千蔵・高家の件については苦慮している。

地域では施設を造っていいということであったが、山梨県の山梨市・甲州市が加わった構想により、最終処分場まで造れる場所が必要となった。

バイオマスタウンを八千蔵・高家に造るということは決定していない。

循環社会がテーマである。合併後 29%ごみを減らして、また、ごみ減量作戦をしている。現在生ごみを何とかして処理しようということであるが、生ごみだけ集めて処理するのは費用がかかることから、剪定グズなども含めて処理できる施設を造らなければならない。

土地は市で用意し、上ものは民間を活用した施設を考えている。

施設を建設すると悪臭の問題がある。EM菌や高温で発酵するYM菌など使用し、臭いを押さえる施設もある。

いろいろな人に意見を聞き、バイオマス施設を考えていく。

建設部長

砂原橋はこれから基礎調査を行う。

仮設の橋を架け、現在の橋を落として同じ場所に設置する工法だと不経済になる。今の橋を有効利用しながら新しい橋を架ける。

増利側とのアクセスも考え、これから位置も含め、国土交通省の意見も聞く中で、経済効果を考えている。

橋を架ける場所は、これからの課題である。橋を架けるにあたっては、国土交通省の指導に従わなければならない。協力を願う。

4. 都市計画税について

説明

総務部長

公営企業部長

質疑応答・意見交換

市民

都市計画税もわかるが、未納者の滞納整理をしてから都市計画税の話をしてほしい。

総務部長

徴収率が悪かったことから、平成 18 年度に収税課を作り、今年度からコンビニ収納を始めた。

滞納処分を強化している。平成 19 年度は 57 件、平成 20 年度は 386 件の滞納処分を行っている。

滞納者の資産を調べ悪質な滞納者は滞納処分を行っている。納税相談や分納の約束をしている。

滞納の一番大きな金額は、1 社で 1 億 8500 万円である。今は、営業実態がなく会社がなくなれば滞納は 0 になるが、法人の登記が残っているため消すことができない。

市民

とれないのか。

総務部長

とれない。

市民

固定資産税が徴収できないのであれば、都市計画税をかけることにより滞納額がもっと増える。

総務部長

現年の徴収率は、92.4%である。7.6%が滞納になっている。
市でも未納者に対して滞納処分を行っている。

市民

石和が都市計画税を徴収していたのは駅前の区画整理のためで、ここには関係ない。
都市化すると固定資産税が上がり迷惑である。都市計画税は見直してほしい。
公共下水道の計画区域を見直し、事業費の軽減を図って欲しい。
都市計画税を取る理由がわからない。受益者負担金を二重取りと思う。下水道償返済に充てることは理屈に合わないと思う。

総務部長

石和は、都市計画税を区画整理事業と下水道事業に使っていた。
合併後は、区画整理事業に使ってきた。
旧町村時代に、公共下水道を導入するために都市計画区域を設定した。
下水道課で全体計画を見直し、合併浄化槽のエリアを広げている。

閉会

市民ミーティング（春日居）要約

日 時 平成 21 年 11 月 19 日(水) 午後 7 時 30 分～9 時 31 分終了

会 場 春日居めぐり情報ステーション

テ ー マ 市の財政状況、大型施設整備構想、都市計画税

参加人数 57 名

市役所（出席者）：市長、副市長、総務部長、税務課長、経営政策部長、財政課長、まちづくり整備課長、公営企業部長、下水道課、春日居支所長

開会

1. 市長あいさつ

2. 市の財政状況について

説明

財政課長

質疑応答・意見交換

市民

平成 20 年度の収納率 77.8%は低いと感じる。市ではどのような対策をとり完納にもって行くのか。

総務部長

平成 20 年度の市税の収納率は、77.83%、現年分の収納率は 94.38%、滞納繰越分は 11.3%である。

滞納の一番大口は、1 件で 1 億 8500 万円の滞納がある。法人であり、今は法人の登記をしてあるだけで、会社の実体がない。処分をしたくてもできない状況である。

最近、経済状況が厳しいが、滞納者に電話や督促を出し、できるだけ来ていただき相談を行ったり、分納誓約書を交わしている。

生活困窮者もいるので、財産状況を調査し、納税が難しい方は執行停止としている。

連絡してもなかなか来ない方、財産を調べ財産があるが納税できない方は、滞納処分を行っている。

19 年の差し押さえ件数は、57 件。20 年度は、386 件、不動産・給与・預金などを差し押さえした。20 年度は 2,100 万円ほど徴収している。

法人も差し押さえることによって、金融機関から融資が受けることができなくなり倒産することがある。できる限り来てもらい、納税相談をしながら進めている。

財産調査を行い、差し押さえ等を行い納めてもらうようにしている。

18年度に収税課をつくり、19年度には収納率が2.2%アップした。20年度は12月頃までは前年並みであったが、秋以降の経済状況で、20年度決算で0.28%ダウンした。

今年も法人の税金が落ち込んでいる。現在財産調査を行い、差し押さえ等を執行しながら徴収を行っている。

市民

10月から高齢者は、後期高齢者医療費を年金から天引きされている。税の負担の公平を保ってほしい。納得できない。

総務部長

市も差し押さえ執行を行えばいいが、それによって会社が倒産することがある。

公平を保つために、法人を倒産に追い込むことはできないので、なるべく来ていただき納税誓約しながら、徴収の努力をする。

公平の負担から行けば100%がいいが、なかなか100%というわけにはいかない。担当と話をし、収納の努力をする。

市民

財政健全化の指標で、民間から見ると甘い指標だと思う。

一人当たり93万円もの借金があり健全というのは疑問である。

経営政策部長

一般会計の起債残高は339億円である。

これを分析すると、本来地方交付税で措置される金額、今年の場合14億円くらいある。地方で借金をしたものは地方交付税で負担するという借金も入っている。

20年度で90億円ある。それが毎年借金で積まれていく。

公共事業を行い、国が半分見るというものも含まれている。

市民

国が甘い。

経営政策部長

わが国の経済を考えながら国も行っていると思う。

国が100%後で負担するから借り入れをするようにという借り入れも入っている。

市民

国が当てにならない時代に、借金のない自治体になってもらいたい。

借金「0」の気概を持って行政を行ってほしい。

国から地方債を借りてくれといわれ、いわれるままに借りるのはいかがか。

市長

言われることは分かりますが、税の仕組みで、市民税と国税がある。税金が笛吹市の中だけで、国に行かないということであれば今言われたとおり、やっていかなければならない。

今は、市税が全体の31%、国の地方交付税が26%、国庫支出金が17%である。国からいただかなければ笛吹市はやっていけない。

3割自治というのを聞いたことがあると思う。制度が変わらない限り借金のない行政を行うことはできない。

今、笛吹市が必ずしも健全とは思わない。甘い部分もあるが、笛吹市も自主独立できるように進んでいきたい。

これまでは5年サイクルで財政計画を作っていた。総合計画を作り今10年サイクルで財政計画を作り、毎年ローリングしている。

合併したとき借金が300億円ちょっとあった。今約340億円である。このうちの約60億円が、合併特例債である。合併特例債は全体の70%は国から戻してもらえる。

合併してからこれだけ事業を行ったが、極端には借金は増えていない。

3. 大型施設整備構想

説明

経営政策部長

質疑応答・意見交換

市民

市内の大きな施設で、何人収容できるか。

経営政策部長

スコレーセンターが400人、一宮の桃の里ふれあい文化館が350人である。

人気のあるイベントや講演会は入場制限がある。

市民7万2000人の規模に合った施設が足りない。

市民

テレビの公開番組を見て、笛吹市に多くの市民が入れる施設があるか疑問に思った。

市民

峡東地域に大きな施設がほしい。山梨市、甲州市も含めた中で大きな施設を考えてほしい。

峡東地区に、文化を発祥できるところがほしい。

グローバルにやってほしい。

市長

多目的施設は、何を目的にするかでつくるのが難しい。
目的を特化した施設は、維持管理が難しい。
いい方向を探りたい。

市民

グローバルにやっていかなければだめである。

市長

貴重な意見をありがとうございます。

市民

近隣にある類似施設を造るならいらない。
笛吹市にある資源で何ができるか考えてほしい。
笛吹市には屋内プールがない。
草津ではプールを造り、高齢者等が利用することにより医療費が下がった。まず、プールでウォーキングから始める。
温泉病院は飽和状態である。
施設内で電気が起こせれば維持管理費がかからない。人件費だけになるかもしれない。
温泉やプールを福祉に活用すれば、福祉のイメージアップができ健康増進に役立つ。
県外の人や病院に通う人が使える環境に配慮した 50m プールを建設したらどうか。
年寄りや病院に通う人が使えば、稼働率が上がり高い料金設定をしなくてもいい。
プールの周りに観覧席を造れば、3,000 席は確保できる。
プールの水を抜き深さを変えれば利用の幅が出る。

市長

貴重なご意見をありがとうございます。
発想を変えるとそのようになるなと思います。

市民

合併特例債の期限が近づいてきている。大きな 6 事業であることから優先順位を付けて行ったらどうか。
合併特例債は国が見てくれるというが、国のお金も元は国民の税金である。国民の税金で借金をまかなわなければならない。
国の仕分け作業の影響はないか。
必要な施設であれば合併特例債を使わないで、造ればいい。

市長

事業を見ると、優先順位を付けるのは難しい。どの事業も、合併特例債を活用する中で事業を行いたい。

駅はバリアフリー化になっていない。北口ができれば春日居の人が利用しやすくなる。

砂原橋も要望が強かったが、合併してすぐ整備ができなかった。

一体感を持つためにある程度の人が集まれるものが必要である。

基金が 110 億円あるが、30 億円は合併特例債を積んでいる。

市民が便利で安全安心のお金を使いたい。

市民

バイオマスセンターで剪定した枝も処理対象になっている。枝をチップ化するシュレッダーを整備してほしい。

市長

どれくらいの大きさのものをいっているかわからないが、市では 5 人以上のグループに、50%の補助を出している。

市民

多目的ホール建設賛成である。

箱物を造ってどうする。造ると維持管理費がかかるという話があるが、市長の提案も分かる。

今なぜ、合併特例債を使い事業をするかを市民に説明し、財政状況を考えながら進めてほしい。

市長

しっかり、分析をしながら進める。

市民

賛成という意見があったが私は反対の意見を言う。

都市計画マスタープランを作ったとき、各地域で大型施設の希望はなく計画にもあがっていないと思う。計画にはサッカー場もあがっていない。笛吹市になって突如出てきた。マスタープランに載っていないので反対である。

砂原橋は歩道が確保できていれば、車は迂回すればいい。今急いでやる必要はない。

我々に総合的な計画が見えていない。

これから、都市計画税をかけるということで、税金を厚く重くしようという行政に対し、強く反対していきたい。

住民のことを第一に、生活のことを第一に考えた道造りや施設造りに変えてほしい。

経営政策部長

基本的な考え方は、財政の健全化とインフラ整備、公共サービスを同時に考えている。
先ほどの借金を減らせというのもよく分かる。

マスタープランの話があったが、その前に総合計画の実施計画の中で、多目的施設に関わるものについては、生涯学習施設の整備、スポーツ施設の整備という中に入っている。

まちづくり整備課長

砂原橋の老朽化という観点から見ると、マスタープランの中に、市街地周辺の骨格道路の再編と機能強化ということで、橋梁の架け替えということで砂原橋については載っている。

「笛吹川にかかる蛭見橋や砂原橋など老朽化が進んでいる橋梁の架け替えを促進します」とマスタープランの交通まちづくり方針に載っている。

文化ホールは、観光まちづくり方針及び土地利用方針の中にも、多目的ホールとはないが、文化拠点の整備を図るという形で記載されている。

4. 都市計画税について

説明

総務部長

公営企業部長

質疑応答・意見交換

市民

春日居の温泉事業の状況を聞きたい。

公営企業部長

平成 21 年度予算内容は、歳入総額が 7046 万 6000 円。歳出総額も同額です。

温泉収益が約 6,700 万円、95%が温泉収入。歳出が、管理費が 4,600 万円、減価償却が 773 万円、消費税、予備費などがある。

閉会